

○議長（前原英石） 加藤智恵子議員。

○3番（加藤智恵子） 改めまして、おはようございます。3番加藤智恵子です。

私からは、通告のとおり、早朝の学校開放と高齢者の移動手段の進捗状況についてお伺いします。

まず、小学校の早朝の学校開放についてです。資料を参考に見ていただけたらありがたいです。

まず、小学校の早朝の学校開放について。

舟橋村は、未就学児も含めた子育て共働き世帯が多く存在します。子育て共働き世帯では、子どもが小学校に入ると、保育園時代に比べて、仕事と子育ての両立が困難になることがあります。

村内の保育園では午前7時から午後7時まで子どもを預けることができますが、小学校に入ると、保護者の出勤後に子どもが登校し、保護者の帰宅前に子どもが下校する家庭が少なからず存在しています。放課後に関しては、学童保育に子どもを預けることができますが、朝の時間のギャップを補う手段はありません。そのため、早朝の子どもの居場所として、早朝の学校開放を求める声が聞かれます。

そこで、実際にどのような早朝の学校開放が必要か確認するために、保育園や小学校の保護者にアンケートを実施し、具体的なニーズや希望時間帯、使用目的などを把握して準備を進めていただきたいと思います。

また、これらの質問を含めた、いわゆる小一の壁で困難に感じていることについても適宜把握し、対応を取ることで舟橋村の子育て環境がますます魅力的になるのではないかと考えます。

早朝の学校開放は、小学校教員の負担を増やさないように行わなければならないと考えます。地域住民や「がっこうてつだいたい」、ふなはしテトラ協働本部——地域と学校（子どもたち）のつなぎ役としてのテトラなどが話し合い、協力をし、早朝の学校開放を実現していただくことを提案します。当局のお考えをお伺いします。

次に、自動運転バスやマイカーを活用した共助型公共交通など、高齢者の移動手段として施策の進捗状況をお伺いします。

令和7年は、団塊世代の全員が75歳以上の後期高齢者となります。元気な方も多いのですが、視力、聴力、認知力、体力の低下が目立って、外出を控えがちになる方々も予想されます。

そこで、自動運転バスを導入されたら、皆さん楽しい活用方法を考えておられます。例えば地域探訪ツアー、村内の歴史的な場所や観光名所を巡るツアーを企画するのはいかがでしょうか。自動運転バスで地域の魅力を再発見することができます。各スポットで地元の方のガイドが案内する時間を設けると、より楽しめるのではないのでしょうか。

次に、趣味のサークル活動に利用します。園芸、写真撮影、ウォーキングなどの趣味を共有するサークルの移動手段として自動運転バスを活用するのもいいと思います。例えば、季節ごとに花や風景を楽しむためのスポット巡りなど、サークルの活動に合わせてルートを設定できます。

地域のイベントシャトル。地域のお祭りや文化イベントへの参加を促進するために、自動運転バスをシャトルバスとして利用することも考えられます。特に移動が困難な高齢者にとって、イベント会場までの移動が楽しくなり、参加意欲が高まります。

次、バーチャル旅行体験。自動運転バスの内部にスクリーンやプロジェクターを設置して移動中に仮想の旅行体験を楽しむこともできます。例えば、海外の名所を映し出しながらバスの中で軽い解説を行うなど、実際の旅行をするような気分を味わえます。

日常の足としての活用として、買物や通院など日常の移動手段として活用するのもよいでしょう。移動中におしゃべりをしたり、楽しい友達をつくるサロンなどの場としても役立ちます。また、バス内で健康チェックを行ったり、運動プログラムを実施したりするのも楽しいと考えられます。

最後に、健康促進プログラムとして、自動運転バスを使ってウォーキングやハイキングの出発地点まで移動し、終点で待っているバスに再び乗るという形で、健康維持のためのアクティビティを促進することができます。運動の後にバス内で軽食やお茶を楽しむ時間を設けるのもいいかもしれません。

これらの方法で、高齢者が楽しみにできる自動運転バスを利用する活動が増えて、移動の時間がより充実したものになると思います。

幾つか今までに提案したことと重なりますが、自動運転バスは自分で移動がしにくくなった方の楽しみに活用することも検討していただきたいと考えています。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（前原英石） 土田教育長。

○教育長（土田 聡） 3番加藤議員の、児童の早朝の学校開放についてお答えいたします。

両親の共働きによって、お子さんの登校時には既に両親が出勤してしまい、お子さんが鍵をかけて登校するご家庭の不安を解消するために、東京都三鷹市や大阪府豊中市など県外の自治体が、子どもの居場所づくりとして、早朝から学校施設等を開放し、始業までの時間の子どもたちを見守る取組を行っているということは、承知してございます。

舟橋小学校は、始業開始時刻を早めておりまして、現在、8時5分から朝の会が始まります。そのため、児童は午前7時40分から50分の間の登校となっております。そのため、自宅を出る時間も早いというふうに思われます。

そのようなこともありまして、舟橋村では、現段階で学校をはじめ教育委員会や生活環境課などにそのような要望が来ておりませんので、実施については、現在のところ検討しておりません。今後要望があれば、検討のほうをしていきたいというふうに考えております。

なお、早朝開放を行うということに当たりまして、開放場所の選定、監視に当たる人間の確保、集団登校、個人登校等の登校時の形態の決定、利用のための費用の自己負担など、解決すべきことも幾つか出てくると思います。

以上です。

○議長（前原英石） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） 3番加藤議員の、高齢者の移動手段のご質問にお答えをさせていただきます。

今ほど、自動運転バスのくだりに関しまして、様々な手法、導入後のご提案をいただいたかと思えます。私も知らないような活用方法も今加藤議員のほうからおっしゃったというふうに受け止めております。

まず、この自動運転バスの導入の是非については、令和7年度に向けて導入するか否かというところは、当局でも対応を進めておるところでございます。これが導入になった暁には、もちろん今ほど加藤議員がおっしゃいました活用方法も念頭に、村民の皆様にとって有益な公共交通施策として昇華させていきたいというふうに考えております。

そして、令和7年度にそういった是非を問いたいということではありますが、私の考えとしては、自動運転バスは、是非の「非」になった場合においても、村民の皆様にとって、この公共交通施策は何らか導入すべきであろうというふうに常日頃感じております。

現在、日本国内においては、公共ライドシェア、日本版ライドシェア、A I オンデマ

ンド交通、デマンドタクシーなど、様々な公共交通施策が始まっております。この中でもしこの舟橋村の公共交通に合致するようなものがあれば、この自動運転バスももちろん導入は進めていきたいというふうに私自身考えておりますが、そうではなかった際には、ほかのこういった公共交通も導入の検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

そして、手前みそではあります、現在舟橋村の公共交通は、社会福祉協議会さんが行っている外出支援サービスのみの状況となっております。加藤議員も恐らく承知しておられるかと思いますが、現在このサービスは道路交通法に遵守した形で外出希望者の方を目的地までお連れする事業となっておりますが、現在は、舟橋村外のスーパーまではこの送迎の対象としておりますが、内科系の医療機関の送迎というのは、担い手の確保が難しいという課題において、なかなか対応ができない状況となっております。そのため、昨年度からですかね、サービス内容の拡充を促進するため、舟橋村役場と社会福祉協議会の職員様でワーキンググループを結成し、話し合いを重ねております。

議員がおっしゃったとおり、介護予防の観点からも、外出であったり他者との交流は非常に有効な方法であると考えると同時に、その一助とするために、現在当村で実施しております運転免許返納事業と並行して、今ほど申し上げましたとおり、自動運転バスもしかり、公共ライドシェア、日本版ライドシェア、AIオンデマンド交通、デマンドタクシーなども今後検討を進めていきながら、その中で実現可能な形を取ってまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解を賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。